

内外交差点

運転者ロックアウトに打開策 ライドシェアレーダー⑪

「交通の安全と労働を考える市民会議」 第11/12回

ニューヨーク市でハイタク事業を規制するタクシーリムジン委員会（TLC）は1月初め、「運転者ロックアウト問題」につき、打開策を示しました。ロックアウトは、労使紛争で経営者が従業員を職場から締め出す行為を指すことが一般的ですが、NY市の場合は、ウーバー・リフトが一方的に運転者のアカウントを一時凍結することを意味します。TLCの新ルールは、72時間前の通知なしにロックアウトはできず、いったん運転者がアカウントにログインしたら、16時間は連続して勤務できるという内容です。この問題に取り組んできたニューヨークタクシー運転者連盟（NYTWA）はTLCの対策を歓迎しています。しかし、そもそもロックアウトはなぜ起きていたのでしょうか。

ウーバー・リフトがNY市に進出した10年前、NYTWAはTLCなどに働きかけ、ブラックカーと呼ばれるハイヤーの規制を両社に適用させました。この規制の下では、イエローキャブなどと同様に、乗車記録をTLCに提出することが求められます。続く2018年8月には、NYTWAの運動により、ウーバー・リフト車両の台数規制と運転者の最低賃金を定める条例が制定されました。背景には、供給過剰による過当競争でハイタク運転者6人が自ら命を絶つという悲劇と、個人事業主として働くウーバー・リフト運転者の85%が最賃に満たない収入しか得ていないという実態がありました。新条例により、両社の車両台数は現状維持の8万両とし、最賃保障には乗車記録から稼働率（utilization rate）を割り出し、これが低ければ低いほど運転者の最賃が高くなる計算方式を採用。空車時間にも適用しましたが、これは他市で実現できていない快挙です。この最賃制度は、稼働率を58%と設定して2019年2月に導入され、運転者は平均で月5万円の増収となりました。

ところが2年前、環境対策を進めたいTLCは、電気自動車に限りウーバー・リフトの台数規制を緩め、7500両の新規登録を認めてしまうのです。この措置は、組合が差し止めを求める裁判を起こして中断されましたが、増車によって稼働率が下がったため、両社は恣意的に実車率を上げて支出を抑えるロックアウトを始めたのです。両社は

NY市の最賃システムに当初から反対していた上、コロナ禍で運転者も利用者も激減する中、TLCが稼働率を定期的に見直さなかったことに不満を募らせていたと言われていました。

ロックアウトは不特定の運転者を対象に毎日どこでも起き、5分である時も8時間続くこともあり、運転者の収入は2～3割も減りました。「ローンが返せない」、「会社の都合で長時間労働を強いられている」、「ロボットのようだ」という声を受け、NYTWAは昨年6月以降、4回にわたって組合員や支援者を動員した大規模なデモ行進や抗議集会を繰り返し、ロックアウトの即時中止を両社やTLCに求めてきました。運動は広まり、マスコミは「両社は総額2億ドル（約150億円）を騙し取っている」と報道。10月にはNY市会計監査官で次期市長候補の一人であるブラッド・ランダー氏が、「容認できない」とする談話を発表しています。こうした世論の高まりを受け、事態は沈静化し、TLCはロックアウトを規制するに至ったのです。TLCはさらに稼働率の計算方法を見直したため、運転者には6.1%の賃上げが確保されました。しかし、不当なロックアウトによる損失はまだ補償されていません。NYTWAの闘いは続くのです。

なお、上記以外の今年1月の主な出来事は次のとおりです。

【1月4日】チリ運輸省が通称ウーバー法を再度会計検査院に提出。ライドシェア運転者がプロ免許を所持し、車両は10年以下であることなどを定めている。施行されれば、8万両の車両が走行禁止となる【15日】ウーバーが米コロラド州を提訴。乗客が払った運賃や運転者の取り分などを開示させる新州法は、不正確な情報を広め、同社などに恥をかかせてその慣行を変えさせようとしており、言論の自由という権利を侵害していると訴えている【17日】独配車アプリ・フリーナウが「運転手付きレンタカー」事業から撤退し、タクシー配車に専念する。ドイツ式ライドシェアとも呼ばれ、以前から不公平競争が問題視されていた。昨年はベルリン議会が車両を一斉点検し、無効ライセンスなどで数百両を営業停止に【27日】グラブと中国EV大手の比亞迪（BYD）が提携へ。今後グラブの運転者に東南アジアで最大5万両を導入する【30日】加ブリティッシュコロンビア州は、ギグ労働者4万6000人に最低賃金や労災補償を保障した州法の見直しを検討する。昨年9月に施行したが、6割を占める空車（待ち）時間は適用外で、有給休暇や超過勤務手当もなく、低賃金を補うため週70時間働く者も依然、多くいるからだ。

